

オーケストラという不思議な生き物 —感動と苦悩の中のマネジメント

日本フィルハーモニー交響楽団専務理事 平井俊邦

- *大震災の夜のコンサート
- *心ない非難が殺到した
- *香港公演で大きな感動呼ぶ
- *音楽のもつ不思議な力
- *日本フィルとはどんな楽団か
- *オケの運営に生きた私の職歴
- *創造・体験教育と被災地支援
- *債務超過解消へ向けての闘い
- *オケの舞台裏とラザレフのすごさ
- *文化が取り残されてしまう…



浅野 開会いたします。（拍手）今日も暑くて、なかなか秋の気配になりません。本当はもうそろそろ芸術の秋だろうというので音楽の話でもと思って今日の講演を設定したんですね。ということでは今日は異色の講師をお迎えしました。オーケストラの内側、喜びと苦悩について興味深いお話を伺えると思います。

平井俊邦さんは三菱銀行で活躍された後、いくつかの企業の経営をされ、それから日本フィルハーモニー交響楽団の専務理事に就任されるという、ちよつと変わった分野に転進されたということ、当時『週刊東洋経済』でインタビューをして話題になりました。日本フィルも経営としては立ち直ってきていたところへ、リーマンショックがあり、さらに去年の大震災があ

りということでご苦勞は続いています。今日は音楽のことはあまり詳しくないという方にも、できれば面白く聞いていただけるようにということをお願いしてあります。平井さんには少々プレッシャーがかかっているかと思えますけれども、大丈夫でしょう。

それから質疑応答では、良い質問をされた方に限り日本フィルのCDを差し上げたいと思います。（笑）これは今日、ラザレフさんという、日本フィルの看板指揮者の話が出てきますけれども、そのラザレフさんの指揮した大震災の夜の記念碑的なCDです。それでは平井さん、よろしく願います。（拍手）

平井 ご紹介いただきました日本フィルハーモニー交響楽団専務理事の平井でございます。